# 2018「植村直己冒険賞」受賞者決定！

## 「未知」の遺跡探査に情熱を傾け約半世紀
## 南アジア密林遺跡探検調査

# 岡村　隆さん

2月12日、植村直己さんの母校の明治大学紫紺館（東京都千代田区）で、2018「植村直己冒険賞」受賞者発表の会見を行いました。今回は、2018年に日本人が挑んだ233件の冒険行の中から、約半世紀もの間、モルディブやスリランカなど、南アジア地域の密林に眠る遺跡を探検調査した岡村　隆（たかし）さんが受賞しました。

東京での会見の様子は、植村直己さんの母校の府中小学校にも中継され、参加した6年生の児童を代表して中嶋和輝（なかしまかずき）君が、岡村さんにお祝いのメッセージを届けました。

本賞の授賞式は、6月1日（土）に日高文化体育館で行います。冒険賞の授与の他、岡村さんの講演も行います。皆さん、ぜひ、お越しください。

**《問合せ》**植村直己冒険館☎44－1515

### 探検に魅せられて

読書好きだった岡村さんは「宝島」や「トムソーヤ」などに夢中になり、木で小屋を作ってみたり、いかだを作って川を下ってみたりと、冒険小説の主人公のように野山を駆け回る少年時代を過ごしました。

高校に入ると文学に夢中になり、図書館に通い詰めましたが、あるとき見た受験の雑誌で、法政大学の探検部がモルディブに探検隊を送る計画をしていることを知りました。この記事が忘れられず、法政大学を受験して入学。念願だった探検部に入部しました。

### モルディブとスリランカ

約50年前のモルディブは英国からの独立直後で、外国人の入国が許されませんでした。20歳の岡村さんは「未知の世界」のモルディブに入国したい気持ちを強く持ち、大統領に手紙を書くなど、粘り強く交渉。その結果、入国の許可を得て、外国人初入国者となり、現地の人と触れ合いながら6カ月間暮らしました。

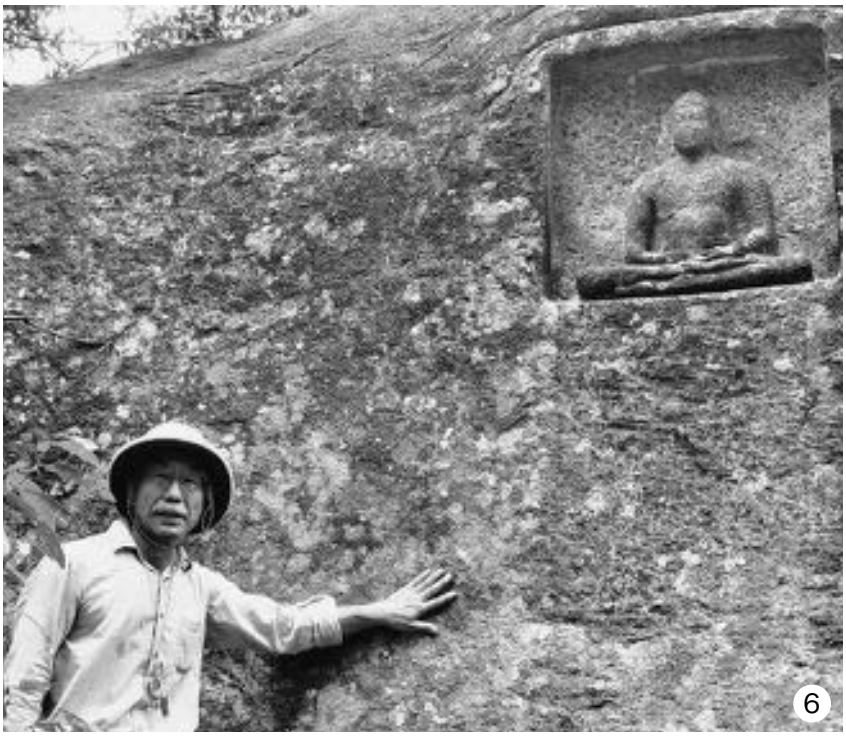
入国の許可を待つ間に滞在していたスリランカでの探検で、スリランカにはたくさんの未知の遺跡があることを知り、遺跡を発見するためにジャングルの探検を始めました。

### 「未知」への情熱

当時の現地政府や大学では十分に遺跡調査が行えず、盗掘や破壊が進んでいる状況を目の当たりにし「誰かが何とかしなければ」「調査が困難な現地の人々と協力して調査を進めることによって、これ以上の遺跡破壊を食い止めることが必要」と考え、今日まで情熱を持って探検調査を続けています。

### 人類文化遺産の大発見

2018年、住民も立ち入ることのできないスリランカ南東部のヤラ自然保護区での調査では、岡村さんを隊長とする探検隊は、タラグルヘラ山の山頂で、仏塔や岩窟（せっくつ）寺院の跡などを、次々と発見。また、先住民が岩に刻んだ岩絵も見つけました。このことは「人類の文化遺産」を守る大発見となりました。


6

4

5

## 想いを後世へ

調査が困難な現地の人々の代わりに調査を進め、少しでも早く文化遺産として世に導き出すことと、現地の人々と協力して、これ以上の遺跡破壊を食い止めることを目的に、2008年にNPO法人南アジア遺跡探査調査会を設立。日本の学生もこの取組みに巻き込むなど、後世に続く仕組み作りに情熱を注いできました。

探す遺跡がどんなに小さな見栄えのしない遺跡でも、その一つ一つの調査の積み重ねと地道な作業の継続にこそ、自分にも結果が分からない「意味」があり、未知の対象への邁進（まいしん）という一点にこそ、何ものにも勝る「面白さ」があると信じて取り組んできました。そんな岡村さんに、これからも本市はエールを送り続けます。

【写真】①岩の丘から見渡すジャングル②ギランドルコッテ寺院遺跡（1973年）③先住民ヴェッダ族の岩絵が残るマルワーリヤ遺跡の岩窟（2018年）④ウィラ川磨崖仏遺跡・再発見時の三尊像（1993年）⑤ジャングルに入る儀礼、折り取った枝を逆さにつるして神に祈る⑥マハウェリ川左岸で発見した磨崖仏遺跡〔写真提供：岡村　隆〕

**岡村　隆（たかし）さん（70）**

1948年９月、宮崎県小林市生まれ。東京都練馬区在住。ＮＰＯ法人南アジア遺跡探検調査会理事長。法政大学探検部ＯＢ。地平線会議設立。69年モルディブ諸島調査隊長に。73年からはスリランカ密林遺跡探査を主導。ＮＰＯ設立後も隊長を務める。本業は月刊『望星』元編集長で、西武文理大学非常勤講師、関野吉晴グレートジャーニー事務局なども歴任。著書『モルディブ漂流』（筑摩書房）、『泥河の果てまで』（講談社）、『狩人たちの海』（早川書房）など

## 喜びの声

植村直己冒険賞という栄誉ある賞をいただくことになり、感激と興奮を覚えております。私は学生時代からの約半世紀、南アジアの密林の遺跡に魅せられて活動してきましたが、念頭にはいつも未踏の地を孤高に歩み続ける植村さんの後ろ姿がありました。その植村さんと会い、教えを受け、親切にしていただいたのもスリランカやモルディブでのことでした。おかげでその年（1983年）には貴重な遺跡の発見があり、その後も南アジアでの遺跡探検を続けられたのだと思います。私の探検は多くの隊員仲間や周囲の支えがあってこそ成果が得られる活動です。かつて励ましをいただいた植村さんはじめ、応援してくださった方々や仲間たちに感謝しながら受賞の感激を噛（か）み締めたいと思います。ありがとうございました。